

学校経営の基盤

- (1) 公教育の立場を踏まえて
日本国憲法・教育基本法・学校教育法等諸法令
全体の奉仕者としての自覚と責任感、使命感をもつ。
- (2) 時代の要請に応える、新しい学校教育の創造を
時代を見極め、新しい要請に応える教育を行う。
チーム藤松⇒全教職員が子どものため結束・協力する。
教育課題への対応⇒アクションプランで学力・体力向上
働き方改革⇒子どもファースト&業務改善プログラムの融合
必要なことに骨太に取り組み筋肉質の学校
大学入試改革を見据えた指導
- (3) 全国に発信できる学校へ
理科の先進的研究
【アクティブ・ラーニング校 公開授業】
新学習指導要領の方向性を全国に向け発信する。
1人1スキル、環境教育推進校、地域連携推進事業 etc.

学校教育目標
心豊かに、たくましく生きる子どもの育成

何を学ばせるのか

- 知『生きるために必要な知恵』
- 徳『人としてのあり方』
- 体『目標に向かって根気強く努力を続ける姿勢』

31年度重点目標 《パワーアップ藤松》

今こそつけよう！未来への力！

あかるく
あいさつができる

なかよく
そうじができる

ただしく
上級生が手本を示す

校区の特性

- 海と山に挟まれた山際の閑静な住宅地。九州交通の要衝。
・東西に伸びる鉄道、国道、海路、高速道路を見下ろす。
・子どもたちが愛情たっぷりに大切に育てられている。
・保護者・地域は学校に対して協力的である。

「あきらめない」《頑張る自分が大好き》「学び合おう、高め合おう」

徹底する教師<チェック&アクション(やり直し)・児童の達成感>

- 学習規律の徹底（待つことのできる子ども）
 - チャイムで始め、チャイムで終わる。
 - チャイムまでに次時の学習道具を揃える。
 - 机をそろえる、姿勢を正しくする。
 - 最後まで相手（先生や友人）の話を聞く。
 - 正しい言葉遣いで教師も子どもも話す。
- 学力向上・体力向上
 - 宿題、身なり等の徹底、補充学習の充実
 - 学力向上の目標と方策（ステップアッププラン）の共有
- 「分かる・できる」を実感できる学習
 - 「分かりましたか」から「分からないところは？」へ。
 - ミニテストでできる(達成感)の感覚をもたせる。
 - 学習後の振り返りで価値付ける⇒評価の工夫
 - 話し合い活動の充実
- 45分を集中させる展開
 - 教師トークは5分以内が理想。しかも視聴覚でシンプルに
 - ボーッとする隙を与えない。（やると得するシステムに）
 - 話し合い、教え合い、学び合う学習集団。
 - ノート記入、グループ討議で集中させる。
 - 目標時間で区切って短時間で仕上げさせる。（小課題短時間で）
- 特別支援教育の深化・充実を図る
 - 特別支援学級「たんぼぼ」との連携。交流学习（給食等）
 - 特別支援を要する児童には特別な配慮を。（トラブル避ける環境）
 - Eバーディ、インクルーシブ教育の視点をもつ。

規範意識と自他尊重

- 規範意識の徹底
 - あいさつ 「おはようございます、こんにちは」どこでも、誰にでも
 - 黙々掃除 いつ・どこを・どのようにするか手順と方法を明確に示す
 - 時間を守る 待たない・途中でも終わる
 - 通行ルール 右側通行、時速4キロ、弱者優先、保健室前静かに
 - 靴揃える 下駄箱の靴・机・ランドセルを揃える、体操服揃える。
 - ◎ ほめましょう 褒め言葉シャワー大会、お便りや放送で。
 - ◎ やり直させる 子どもに責任をとらせる（掃除・廊下走・靴揃え）。
 - ◎ 連絡帳や学級だよりやあゆみで評価し励ます。
 - ◎ 振り返らせる 生活チェック表や日記等で一日を振り返る。
- 自己実現を目指す生徒指導の推進
 - 問題事象には理由がある。問題の背景に寄り添う姿勢を忘れずに。
 - 問題事象は、主任・管理職への報告及び、即日対応、家庭訪問。
 - 毎月のいじめ調査、聞き取り。全市統一調査年一回以上。
 - 事が起きてからではなく、事が起きる前に指導する。（健康観察を大切に）
 - 藤松小のきまりを見直し、徹底する。
- 人間としてよりよく生きる基盤を養う（道徳科に向けた一部先行実施）
 - 主体的判断のできる、自立した人間として他者と共によりよく生きる。
 - 誰も見ていなくても、してよいこと・悪いことを区別して実践する。
 - 心の広い大きな人になろう。（損得感情）
- 人権感覚を育む人権教育の推進
 - 日常生活の中に温かい言葉を増やそう。（どうぞ、ありがとう、すごい、やるね、助かる、大丈夫？ 大好き）
 - 体罰の禁止・言葉の暴力、連帯責任の禁止。（だめ、だらしない、どうしようもない、幼稚園並）（うざい、きもい、むかつく、死ぬ、チビ、ばか、デブ）

チーム藤松は自立ありき

- 学び合う教師集団の育成
 - 事務削減して子どもと触れ合う時間を捻出する工夫を。
※月一回の若手研修会。
 - 定時退校（金）ON/OFF切替。超過勤務80hを超えない。
 - 綱紀粛正(飲酒運転撲滅、個人情報保護、体罰・セクハラ撲滅)
 - 誰もが一つは校務の提案で学校全体を動かす。（決まったら協力）
 - 情報共有が肝；管理職や主任に必ず（学年行事等の事前連絡）。
- 保護者との結びつきの強化
 - 出会ったら保護者に良いことを発信する努力を。
 - 保護者は子育てに悩んでいる。相談に乗る気持ちで。
 - 通信、HP、一斉メール等で学校・学級の様子を知らせる。
学級・学年通信等対外文書はチェックを受ける。1枚校長へ。
 - 学習参観は元気で明るい姿を見せよう。（服装等見た目は重要）
（学習参観、運動会、音読会、開放週間、作品展、持久走大会）
 - PTA活動への積極的な参加（バザー、行事、理事会等）。
 - 学校評価制度、アンケートで保護者にも参画意識を。
- 地域との結びつきの強化
 - 地域の教育ボランティアへ感謝の気持ちを示す。
（図書、プールボランティア、昔体験、感謝の気持ちを伝える）
 - 地域行事への積極的参加（藤松フェスタ、敬老会、スクールサート等）。
 - 学校評議員との連携(年2回会議の実施)。
- 園・中学との結びつきの強化。
 - 保幼小中連携事業；緑ヶ丘中、西門司小、藤松保育園との連携。
- 体力アップ（外遊びの推奨）で我慢強さを育成
 - 3学期の持久走大会や縄跳び集会目指して体力アップ。
 - 1時間の体育の活動量を増やす。

安全第

- 健康教育の充実を図る。
 - 8：35までに健康観察、8：40までに居所把握。
 - 怪我は原因究明し、保護者へ当日必ず連絡する。（連絡帳は×）
 - 怪我の病院行、病気の帰宅は管理職に必ず相談を。首からは必ず病院へ。
 - 不登校、無断欠席、2日連続欠席は担任家庭訪問。

- 防災教育の充実を図る。
 - 学期初めの交通安全指導・毎月安全点検の実施。
 - 登校時刻、下校時刻の遵守。
 - 防災訓練の実施。（交通安全・地域含めた避難訓練）
 - 校外学習は1週間前に届け提出。

- 食育の推進を図る。
 - 食後の歯磨き、手洗い習慣化、もう一口運動のススメ。
 - 給食時間（12：20～13：05）13：20までには終わる工夫。
 - アレルギー対応おかわり禁止、食中毒、異物混入の防止(引率)。
 - 調理や火気を使うときには管理職へ事前連絡を。